

いのちまもる キャラバン行動ニュース

第8号

2013年10月11日

日本医労連

TEL : 03-3875-5871

FAX : 03-3875-6270



秋田県医労連キャラバン行動



秋田県医労連は10月5日、秋田駅前広場で署名宣伝行動を実施しました。参加者12人で、短時間で268筆の署名を集めました！観光キャンペーンを行っている関係で、周りは人通りも多くいつも以上にぎやか。楽しい雰囲気が写真から伝わってきますね♪

「特定看護師問題」学習会開催！

秋田県医労連は10月4日と5日に、「特定看護師問題学習会」を2回にわけて開催し、それぞれ看護師ら39名、19名が参加しました。田中副委員長が挨拶し(写真右)、日本医労連の三浦書記次長が講師をつとめました。「あらためて制度に反対。国会請願署名を急いで集約しよう」「患者住民に知らせないといけない」「外国の制度を知りたい」などの意見が出されました。



特定看護師反対署名

現在 **9012** 筆

医師会からメッセージ届く!!!



10・24 集会の成功に向けて弾みつく

「いのちまもる10・24国民集会」の賛同要請に日本医師会より、中川俊男副会長、今村聡副会長のお名前での賛同とメッセージをいただきました!「世界に冠たる国民皆保険を堅持し、真に国民に求められる医療提供体制の実現に向け、本集会が大きな成果をあげられることを祈念いたします。」との励ましをいただきました!

日本難病・疾病団体協議会 訪問

10月10日、日本医労連は日本難病・疾病団体協議会(JPA)を訪問し、「いのちまもる10・24へ国民集会」への賛同の呼びかけや、大幅増員運動への協力を求めました。



日本医労連からは鎌倉副委員長、木口副委員長、中野書記長、が訪問し、JPAからは伊藤たてお代表理事(写真・中央左)、水谷幸司事務局長(写真・左)に対応して頂きました。

「難病、長期慢性疾患、小児慢性疾患の総合対策を求める請願書」は、毎年90万筆集まります。5つの請願項目には「医師・看護師不足、地域医療、専門医療の地域格差の解消」も含まれ、「患者の最新の医療を受けたいという思いに応えるために、全国どこに住んでも専門医療が受けられ、専門医がいない地域でも医療機関や医師、保健師等のネットワークが構築されることが必要だと訴えています。

伊藤代表理事は、「難病をめぐる状況では、対象疾病が拡大する方向にあるものの、一方では自己負担の増大が狙われており、患者にとっては極めて厳しい状況があることが強調されました。そうした中で、患者団体と医療関係者との懇談や情報の提供などが出来たらとの考えも示されました。

JPAとは

JPAは、難病・長期慢性疾患、小児慢性疾患等の患者団体と、地域難病連の77団体で構成される患者・家族の会の中央団体です。主な活動として、制度の谷間を無くし誰でもが安心して暮らせる社会をつくることを中心に、患者・家族の交流、社会への啓発、患者サポート事業による研修活動、患者団体の国際連携の推進、患者等に関する調査・研究活動及び患者レジストリの作成などがあります。